

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900087
法人名	(有)ケアサービス九州
事業所名	グループホーム ふぁみりー那珂 1階
所在地	福岡県 福岡市 博多区 那珂3丁目14-6
自己評価作成日	平成24年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年8月27日	評価結果確定日	平成24年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的・自由・明るく笑顔のでる場所を提供できるような力を入れている。ご家族様、利用者様に安心・満足・信頼をもっていただけるよう、努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスとしての事業展開を図る法人としての実績を活かし、公民館や小学校に隣接する当地に新規開設されている。馴染みの関係性を重視し、住み慣れた場所にある商店街や銭湯の利用、家族と連携した遠方への里帰り等の個別支援に取り組んでいる。また、小規模多機能型事業所が併設されており、現状を本人本位に検討し、在宅復帰となった事例もある。1階リビングから続くウッドデッキへ自由に行き来する方の姿や、自室で自由に自分の時間を過ごす方等、管理者、職員は、その方にとっての空間や距離感を意識しながら、日々の関わりを持っている。今後も入居者や家族の思いに寄り添い、地域との交流や連携を積み重ねながら、本質的なケアの充実を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ロッカールームに掲示し、毎月のミーティングで理念を職員で唱和し、実践できるよう心がけて安心・満足・信頼が守れるよう努力している。	地域密着型サービスとしての基本理念及び運営方針が掲示され、毎月のミーティングの際は唱和を行っている。新人研修では、理念の理解や共有も重視している。個人記録の様式には、理念に基づいた支援について記載する欄も設けられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近くの商店街を利用したり、公民館・花屋など利用し、地域の方々に顔を覚えてもらい、自然と会話ができるよう心がけている。正月は餅つきに小学生のサッカーチームにも参加してもらい、交流が増えていっている。	地域との交流を重視し、小学校や公民館と隣接する当地に開設されている。公民館活動の見学や参加、近隣商店街の利用を通じて、地域との関わりを深めているところであり、認知症サポーター養成講座の開催や、挨拶運動の実施も予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話番号を施設外壁に貼り、気軽に高齢者の方、その家族に来ていただけるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での、地域・ご家族からの貴重なご意見を活かし、ご家族・地域の方にも知っていただきたいことも、常に話に取り入れている。	開設当初は併設される小規模多機能型事業所との合同で開催されていたが、家族の要望も踏まえ、現在、単独での開催に取り組んでいる。家族が参加しやすいよう、土曜日に開催しており、地域からの情報提供や、行政書士による権利擁護制度についての説明も行われている。今後も意見交換を行いながら、有意義な会議となるよう開催方法についても検討を続けていく予定としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、協力関係が築けるよう心がけている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。グループホーム協議会の会合を通じて、また、行政担当者が見学に訪れることもあり、顔の見える関係の中で、情報共有や協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開錠しており、自由に行き来できるようになっている。居室は、ご自分で鍵をされる方もおられるが、声掛けし開錠していただいている。ベットの柵は、ご家族と話し合いで希望された場合のみ、頭側・足側の柵は考えている。	法人として、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。法人全体のリーダー会議では、特にスピーチロックについての意識を高め、各事業所での周知に努めている。「止むを得ない」と安易に身体拘束を行わず、本人を理解することや、代替的な方法について協議を重ね、センサー使用についても解除の視点を明確にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉でも虐待になることも、注意し嫌がられる時は、無理強いしてはいけない事も日々伝えている。社内研修も取り入れ、職員にも注意を払い、気を付けている。		

福岡県 グループホーム ふあみりー那珂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いきいきセンターの方と行政書士の先生に運営推進会議にて話をいただいた。	現在、成年後見制度を活用している方もおり、入居時や運営推進会議の中で情報提供が行われている。関係機関や後見人である行政書士より説明が行われ、活用にもつながった事例もある。外部研修への参加や資料の整備を通じて、職員の理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約では、説明を細かくし、質問にも応えられるよう心がけている。改定の際は、理解していただき、その上で同意書を書いていただくようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族会を行い、ご家族との交流を深め、意見・要望が言いやすいように配慮している。	運営推進会議や家族交流会を通じて、意見や要望の収集に努めている。定期的に家族交流の機会を作り、意見や要望を表出しやすい環境作りが行われている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員1人1人の声を時間がある限り、聞いてくださり、意見も聞いて良い提案等は、取り入れて下さる。	ユニット毎にミーティングを行い、活発な意見交換が行われている。「若手会」と題される交流の機会もあり、若手職員だけで集まる機会をつくり、意見を言いあえる関係作りや、風通しのよい職場環境作りが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力は常に観ていただいている。向上心を持って働けるよう努めて下さっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については、性別・年齢・経験の有無では決めていない。また、現職員には、実行したい事などは、積極的にしていただくように配慮している。	職員の採用にあたっては、募集の際の職員バランス等は考慮するが、基本的に、年齢や性別、経験等による排除は行っていない。正職員での採用を基本とし、希望休の取得や休憩時間の確保、また、外部研修への参加を出勤扱いとする等、働きやすい職場環境作りに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権を尊重するため、まず職員には認知症を理解していただくため、社内研修を取り入れている。	法人として、知見者を招き人権教育に継続して取り組んでいる。また、グループホーム協議会の研修や認知症の理解、職員のストレスケアにも留意しながら、人権教育、啓発に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は参加を促し、研修への機会を作っている。研修に行った職員も毎月のミーティング後、研修報告の機会を設け、そこで研修内容を説明してもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会で研修の機会があれば参加している。系列のグループホームとより良くなるよう情報共有・意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を傾聴し、様子観察を行い、本人の思いに早く気づき、受け止めれるように配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを聞き、ご利用者の方がその人らしく暮らせるよう、気軽に話が出来るよう、努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の話をよく聞き、何が必要で何が求められているかを見極めて、対応できるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や洗濯・掃除・食器洗いなど、一緒にしていただいたり、暮らしの延長と思えるよう、心掛けています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも一緒に支えて行く事が出来るよう協力していただいている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	話をよく聞き、お知り合いの方などの名前、お話を大事にし、近ければ訪問している。	自宅所在地の商店街や銭湯の利用、遠方にある自宅までの小旅行等、これまでの暮らしの中での馴染みの関係性の継続を支援している。また、小規模多機能型事業所が併設されていることを活かし、状態に応じて、在宅復帰された事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席などを考え、トラブルにならないよう注意して、トラブルになった際は、間にすぐ入れるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても相談には快く応じて、来訪も気軽にさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・要望に応えられるよう話を傾聴し、困難な場合は、職員で話し合い良い方法を考えている。	家族の来訪する機会も多く、情報収集や共有を行う大切な時間と捉えている。日々の記録様式は工夫されているが、思いや意向の把握や共有につながる記載は少ない。	家族の協力も得ながら、情報収集を行っている段階である。職員個々の持つ情報は多く、ミーティング等での共有に努めている。アセスメントの充実に向けた働きかけも行われており、今後の取り組みに期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供の記入をお願いしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・日誌などで把握している。申し送りでも分かるようになっている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて話し合いを行い、家族にも来苑された際、話をしより良くなるよう心がけている。	本人、家族の意向を踏まえ、日々の実施記録(モニタリング)やカンファレンス、月例ミーティング等を通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・会話・不穏など記録をとおり、申し送りし、意見ノートも取り入れより良いケアを目指している。		

福岡県 グループホーム ふあみりー那珂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一つ一つの成功例を意見ノート・申し送りノートにも記入し、職員が把握できるように心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが出来ることをし、笑顔で過ごせるよう、見守り、援助している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医がおられる場合、入居の際往診可能かお尋ねし、無理であればご家族にも納得していただいた上で事業所の担当医に診ていただいている。	入居時に、かかりつけ医について確認している。家族の協力を得ながら、これまでのかかりつけ医への受診や、複数の医療機関との連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当医院の看護師が毎週水曜日に、健康チェックに来ていただいている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	アセスメントをお送りし、分からないことがあれば情報交換も行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約段階で、見取りに関する指針をお渡しし、どの段階でご家族に同意書をいただくかの説明を行っている。	終末期の指針は詳細に作成され、入居時に説明と意向確認が行われている。看取りを支援した経緯もあり、状況の変化に伴い、家族や医療関係者、職員間での話し合いを重ね、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が、応急手当などスムーズに行えるよう、定期的に話し合い、個々で学んできたことも出せるように、勉強会を行い実践力が身に付くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1度、消防にも協力していただき、避難訓練を行っている。	消防署の指導のもと、夜勤帯を想定した避難訓練を実施している。建物は水害も想定し一段高くなっており、掃きだしの窓は避難時にも有効である。隣接する公民館が避難場所となっており、町内会長や消防団への働きかけが予定されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた、言葉かけ、対応は職員が心がけている。	自己決定の場面を大切に捉え、レクリエーションへの参加はその都度確認し、居室内で過ごす時間も大切に捉えている。個別の時間の流れや空間への意識、生活習慣の継続、日々の整容等、個別性を重視した対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が遠慮せず、ご自分の口から言えるように話をゆっくり聞き、自己決定されたことは、叶えられるよう支援・援助行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを大切にし、出来るかぎり個々のペースを大切にし、希望にそえるよう努力している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人なりのおしゃれが出来るよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けも職員と一緒にできるよう、声かけし、食事中も楽しく出来るよう心がけている。	地域の商店街を利用し、食材の買出しに出かけたり配達してもらっている。入居者の方々と相談しながら日々のメニューを決め、本社の栄養士によるアドバイスも受けている。エプロンを着け、調理準備や引き膳、食器洗い等に自然に参加する方の姿も見られた。毎月、外食行事を企画している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が取りにくい方などは、1日の目安を決め、摂取していただくよう、支援している。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー那珂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に合わせて、歯ブラシ又はスポンジブラシで口腔ケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、パターンを確認し、出来るだけトイレで排泄できるよう、声かけを行っている。	チェック表による個別の状況やパターンの把握、また、表情や行動等のサインを見逃さないよう心がけながら、声かけやトイレ誘導を行っている。快適さを優先し、個別の検討を行いながら、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天ゼリーを摂取していただいたり、水分摂取量を調整している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりにあつた支援をしている。入浴日も時間も決めてはいない。	毎日の入浴も可能であり、希望があれば夜間の入浴にも対応可能である。入浴準備を役割として携わる方もおり、入居者同士が声を掛け合いながら入浴を促している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりのタイミングを大事にし支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作りすぐわかるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活を入居時間しているなので、その方が明るく笑顔になれる支援を心がけている。		

福岡県 グループホーム ふあみりー那珂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望にそった外出を心がけているが、団体では、限られるので担当者との個人レク・又は家族に相談もし、協力している。	外出・外食行事の他にも、買い物や隣接公民館、映画鑑賞等、個別の支援も行われている。1階はウッドデッキも設けられ、自由に出入りする方の姿も見られ、気軽に外気浴を行うことが出来る。家族とも協力しながら、JRを利用し、里帰りを支援した経緯もある。日々、臨機応変な対応に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時に可能な方は、お渡しして支払っていただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えるようにしている。手紙もやり取りできる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が、居心地良く過ごせるよう意見を取り入れて、模様替えなど行っている。	リビングには、掃きだしの大きな窓が設置され、明るく、開放感ある造りとなっており、そこから続くウッドデッキへ自由に移動する姿も見られた。ソファの設置等、くつろぎの場所も確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思う通りに個々で動いていただき、転倒に注意し見守りを行っている時間もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅にあって使い慣れていた物などを用意していただいたりしている。	各居室は掃きだしの窓が設置されている。筆筒やテレビ、仏壇等が持ち込まれ、絨毯が敷かれている居室もあり、思い思いの居室作りとなっている。居室の配置は様々であり、プライバシー空間として機能している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりができることをしていただき、トイレ・廊下・入浴に手すりを利用し、居室前には名前を分かるようにし、その支援ができるよう心がけている。		